

日蓮大聖人御書全集

ろんだんてきたいごしよ

論談敵対御書

新版
2138

ろんだんてきたいごしよ

論談敵対御書

ろんだんてきたい

とき

ふたくちみくち

およ

いちごんにごん

たいくつ

論談敵対の時、二口三口に及ばず、一言二言をもつて退屈

お

ぜんかくじ

どうあみだぶつ

ちようあんじ

せしめ了わんぬ。いわゆる、善覚寺の道阿弥陀仏、長安寺の

のうあんとう

能安等これなり。

のち

あつく

くわ

むち

どうぞく

あいかた

るなん

その後はただ悪口を加え、無知の道俗を相語らい、留難を

な

くにぐに

じとうとう

かた

こと

作さしむ。あるいは国々の地頭等を語らい、あるいは事を

けんもん

よ

ちゆうや

したく

う

じようもく

権門に寄せ、あるいは昼夜に私宅を打ち、あるいは杖木を

くわ

とうじよう

およ

きじん

む

い

加え、あるいは刀杖に及び、あるいは貴人に向かつて云う

ほうぼう

もの

じゃけん

もの

あつく

もの

ぼんごん

もの

とう

きようげん

「謗法の者」「邪見の者」「悪口の者」「犯禁の者」等の狂言、

その^{かず}数^しを知らず。^{つい}終^{きよねんご}に去^が年^つ五^じ月^{ゆう}十二^に日^ち戌^{いぬ}時^{のとき}、^{ねんぶつ}念^し仏^や者^やならび

ぬしに塗^ぬ師^し・□^し師^し・雑^{ぞう}人^{にん}等^{とう}。